

# 「事業名：葛尾村における地域特産物開発と食農教育」 2021年度補助事業の実績・成果

郡山女子大学 連携市町村：葛尾村 連携市町村との協定締結日：平成28年12月6日  
 現地拠点：双葉郡葛尾村大字落合字菅ノ又14-2 旧葛尾村中学校（2階印刷室）

## 事業のポイント

遊休農地を活用して、学生や村民と共に葛尾村の特産物栽培(エゴマ、オヤマボクチ、コシアブラ)、特産物を活用した加工品開発、料理教室を通して、東日本大震災被災地での活動を担う人材育成と、若者の農業生産の尊さや感謝の心を育て、食育実践につなげる人材を育成するため事業である。



エゴマ栽培の様子

## 今年度の活動実績

### 1. エゴマの栽培を通じた食農教育

- (1) エゴマ栽培(施肥量の違いによるエゴマ生育の違い)
- (2) エゴマ成分の分析(脂肪酸組成、脂質、ミネラル分析)
- (3) エゴマ商品開発
- (4) エゴマレシピ集の活用



エゴマ葉、種子の分析



エゴマアイスの商品化

アイス商品紹介POP  
パンフレット作成

### 2. コシアブラの栽培を通じた食農教育

- (1) コシアブラ栽培(土壌分析、放射性セシウム吸収状況、畑地での栽培方法の確立)



### 3. オヤマボクチの栽培を通じた食農教育

- (1) オヤマボクチ栽培(畑地での栽培)
- (2) オヤマボクチを使用している凍みもちの新規利用方法
- (3) 凍みもちの商品開発



凍み餅の人工栽培

開発のための試作風景



「あぜりあ市」での開発商品の紹介

文化祭での凍みもちの  
新たな利用法について提案

## 今年度の成果

1. (1) 6月に12aの農場へ3500株のえごまを定植、学生が村民と共に栽培し、10月末に66.2kgのエゴマを収穫した。  
 (2) エゴマ葉、種子の成分の分析を行ったところ、施肥量の違いによる成分の差は見られなかった。  
 (3) ジェラード店ハニービー(福島市)と共同開発し、エゴマアイスが2021年12月8日に商品化された。学生考案の「ラングドシャ」  
 「ふりかけ」について村のイベントにて試食アンケートを実施。総合的に良い評価で、得られた意見を参考に今後改良を行う。  
 (4) 2020年12月に発行したエゴマレシピ集を増刷し、村内への設置、イベントやふるさと納税返礼品への同封などで活用した。
2. (1) 現地畑地にコシアブラ及びタラノキの苗木を定植し、生育を調査した結果、コシアブラは発芽は見られたものの夏季の高温乾燥でほとんど枯死した。一方、タラノキは生育が順調で、放射性セシウムの吸収も認められなかった。
3. (1) 現地畑地にオヤマボクチの苗を定植し、生育を調査した結果、今年度も順調に生育し放射性セシウムの吸収も認められなかった。  
 (2) 凍み餅を人工気象下での製造に成功し、厚みの異なる凍み餅の作成が可能となったため、商品開発検討の自由度が広がった。  
 (3) 考案商品「うぐいすもち」「チョコもち」を村のイベント試食アンケートを実施。総合的に良い評価だったが、オヤマボクチの風味を残すことに関して課題となった。また、本学文化祭で学生が考案した凍み餅の新たな利用法について提案を行った。



作物成長の様子